

2020年度前期オンライン授業に関するアンケート（工学部・建築学部）【自由記述（講義系）抜粋】
オンライン授業を実施してよかった点（講義系：工学・建築）
（利便性・反復受講）

1	オンデマンドで実施したことにより、就活や教育実習等に影響されず、学生自身の都合に合わせて受講でき、復習のために再度視聴するケースも見られた。直接関係するか不明だが、例年に比べ受講者が5割ほど増えた（選択科目）。
2	わからない部分を繰り返し見られるということで、真面目に取り組みたいと考えている学生にとっては良かったようです。また、コンテンツの視聴時間は学生によってまちまちという状況を利用して、普段の授業時間内に収まらない内容の講義を行うことができました。
3	学生が繰り返し視聴でき、対面授業では質問できないところも質問できたところ。
4	複雑な内容の説明は何度も見直せるため、大学院の授業とは相性がよいように感じる。
5	学生からの質問がメールで届くこともありましたが、単なる問い合わせではなく、学生自身が考えたことを一旦整理したものであったこと。
6	正規の時間の欠席者にも動画の視聴を催促することで対面授業に比べてフォローしやすい。

（授業の質向上）

1	画像が見やすい（うしろの席に座るより）。
2	動画や資料を、学生にわかりやすく作りこむ必要があったため、質が向上した
3	オンデマンドの動画を見返して修正することにより、内容の改善が行えた。
4	資料を多用する講義なので、すべてを電子化することができた（やらざるおえなかった）
5	小テストの結果を学生が受験後にすぐ確認できるため、紙によるテスト（返却に1週間かかっていた）より受講結果の自己点検の効果が上がったと思われる。
6	資産化できる。
7	受講管理がしやすい。受講の機会を多く与えられる。講義資料に無駄がない(板書に比べて)。
8	ときどき学生がとったノートをスキャンして提出してもらったが、ノートを見ることで学生の学習状況がよく分かった。（がんばってやっている学生は、その努力がよく伝わってくる）
9	14回中前半の7回はすべてリアルタイムで実施。8回目に中間試験（Forms）。後半は10～15分リアルタイム授業のあとオンデマンドに切り替えた。学生の反応を探りながら授業形態を模索し、進めていくことができた。最終回のアンケートでは、おおむね満足度の高い授業となった様子がうかがえた。
10	オンライン授業を自分なりに評価することができた

（教員にとって）

1	欠席した学生に対して、収録した動画を見せることで対応できるようになった点
2	同じ内容の授業を2回以上行う場合、1回のオンライン授業で実施できる点がオンライン授業の利点ではないかと思う。
3	2クラス分を同時に準備できた。

（その他）

1	成績評価ができた。
2	教科書の最後まで進められた
3	紙の使用量が大幅に減った
4	教員としては、例年よりは充実した授業でした。というのは何かといいますと、純粋に授業しかできなかったからです。言い換えますと学生と目を合わせたりすることができなかったため、ちゃんと伝わっ

オンライン授業を実施しての問題点や課題（講義系：工学・建築）
（視聴実態の把握・出席管理）

1	一部の学生は、本当に講義を聞いているかどうか分かりづらい
2	学生の自己管理に依存するので、脱落してしまう学生も認められ、不合格者が案外多かった。
3	"オンデマンドで授業した結果、時間割通り受講する人数は半数から 1/3 程度に減ってしまった。対面授業に戻ったときの出席率に影響しないか心配です。
4	私が実施した科目は全てオンデマンドでしたが、いつでも見られるということから、教材を「見ない」という状況を改善しないといけないと思います。動画を見ずに課題やレポートをやろうとしている学生が散見される点も改善する必要があります。加えて、気軽に質問したり要望を出すことが容易にできるようになったことから常識でない要望を出してくる学生も居たため、学生の意識の改善が必要かと考えています。
5	オンデマンドでの実施では、授業の動画やスライドを見ないという学生に対して見させるような状況づくりが課題だと考えています。
6	オンデマンドだと、動画を見ずに、提出物をためがちになる。
7	各学生の視聴履歴は把握できるようになるとありがたいです。
8	学力の格差だけでなく、学習態度にも格差がついてしまっている。
9	遅刻・出欠管理の質が落ちた。（人数が多くなると出欠・参加管理が困難になる）

（受講・通信環境）

1	受け手側のネット・PC環境により講義画像の解像度に違いが生まれ、満足度に差が生じている点。
2	学生の自宅での受講環境のばらつきによる接続不具合等の申し出が少なくないため、その対応が大変。

（学生の反応・理解度の把握）

1	学生との質問対応等のコミュニケーションのやりにくさ、回線の問題による画質の低下
2	授業中に学生の様子がわからない。学生の受講態度がよくない（起きてすぐ、バスで移動中に視聴（当てても返答できない）、期限ぎりぎりまで小テスト等に取り組まない等）。
3	相手の様子が確認できないため、聴いているのか、寝ているのか、理解しているのか、困っているのかを判断しかねるため、授業の進め具合の判断が難しい。
4	授業の初めに接続して、そのままどこかへいなくなったり、寝ていたりしてもこちらではわか
5	学生の反応が見えないので、講義の進め方を迷う。
6	学生が理解しているかわからない。（対面だと顔つき等でわかる）

（教材作成の技術的問題・教員負担の増大）

1	試行錯誤しながらの動画作成となったため、画質とファイル容量の適度なバランスが最後までつかめな
2	週1回の授業であったが、通信料負担を軽減しようとすべてHTML文書に作ったため、1時間の授業を作るのに24時間以上かかる状態だった。答案をチェックしてフィードバックをかけようとする、学生の提出画像が不鮮明であったり印刷量が膨大だったりして作業量が多く、全員分はやりきれなかった。
3	授業評価では、話し方など聞き取りにくい部分があったようであるため、話し方の改善をしていきたい。
4	ビデオの撮影時に、声質、音量、抑揚、話す速度などのクセが出て、調整が難しかった。また教材、システムそのものに不慣れであったことが大きな問題点であり、反省点でもあった。改善策としては、教材作成のマニュアル、システム活用のマニュアルの整備があげられる。
5	記述式の課題に対する採点作業などが手間取る

(成績評価・試験)

1	試験だけはオンラインでは公平性が全く担保できませんので、対面でやらないといけません。
2	期末試験を持ち込み可で実施したが、持ち込み不可の従来の学生と比較して成績が10点以上低かった。このことから、対面授業と比較して学習効果が低いと考えられる。
3	定期試験の不正防止が問題。

(その他)

1	例年、実務家の外部講師を招き、仕事の内容・雰囲気を直接に学生に語りかける授業形態で、終了後、学生が講師に会社のインターンシップなどの質問に行く姿もみられた。オンラインであったため、このような外部の実務家と直にコミュニケーションをとる方法が実現できなかった点であり、工夫が必要だった課題である。
2	授業に「雑談」を入れることができないため、ハウツーを教えるだけとなってしまう、考え方や態度（フェアであること、努力の意味など）についての教育ができていないことが試験で分かった。
3	講義はオンラインと対面の併用が学修効果が上がると思います。
4	数学等はオンラインは難しい
5	リアルタイムかオンデマンドかどちらがいいか中間時点で学生に尋ねたところ、リアルタイム 30%、オンデマンド 30%、どちらでもよい 40%となった。さらにどちらかの2択にしたところ 50%ずつに分かれた。リアルタイムは、対面と同じ緊張感や授業中の双方向性、臨場感があること、時間管理が強制されることによる支持。オンデマンドは自由な時間に視聴出ること、繰り返し視聴や、通信環境の影響を受けないことによる支持。リアルタイム授業では、板書を撮影したものと、Teams 録画の2本のビデオを毎回 Stream に UP した。録画があることでリアルタイム、オンデマンドどちらでもよいと答えた学生も複数あった。
6	相互作用といいますかね。教育というのは、単なる知識の伝達ではないから、様々な工夫が必要かと思っています。教員もそうですが、大学で組織的にバックアップできる体制になってほしいです。
7	専用のソフト (illustrator) を使用するので、自宅で使えない学生へのフォローに苦労した。

オンラインでの期末試験実施の問題点（講義系：工学・建築）
（不正防止のための工夫や作題上の問題点）

1	学生証と受験者の顔を同時に写真を撮り、そのファイルを送信してもらって（本人確認）から試験開始とした。トラブルは特になかった。
2	特に問題はなく、事前に学生に通知しておけば学生が十分対応することが確認できました。
3	LMSの機能によりどうしても解答のさせ方が制限されるため、作題の自由度は下がったように感じました。
4	短い解答時間中に問題訂正のアナウンスができませんでした。
5	通信環境の不具合等で受験できない学生が生じるため、問題を複数用意する必要がある。この授業では、独自の問題自動生成システムで対応した。

（資料閲覧）

1	何でも閲覧できる状態を前提とするため、問題の準備が膨大となる。一方問題の難易度が高くなる。
2	資料等を見られる前提で実施しなければならないので、本来の試験による教育効果は測れない。
3	試験の時は、教科書やノート等を見ながら受験できるので、覚えなければいけない事項等確認できない。
4	最終課題レポートを試験の代替としたが、試験で測定できる理解度との性質が異なる
5	簡単な公式やキーワードは覚えておく必要があるが、教科書やノートを見ながら回答できる点

（その他）

1	当該科目において問題はなかった
2	期末レポート試験では、特にオンラインによる問題点はなかった
3	通常のレポート試験と同じ

オンライン授業の教育効果についての意見（講義系：工学・建築）
（評価できる点）

1	学生からの声、アンケート結果、試験結果等々から総合的に判断して、本科目については対面授業と遜色ない教育効果が得られたと自己評価している。
2	対面と同等の効果はあったと思う
3	この科目については、オンラインでも対面でも違いが無いように思います。
4	授業アンケートを読む限り、しっかりとした講義資料が準備してあれば、繰り返しの動画視聴と確認テストの実施は学生の理解度の向上に大いに役立ったと判断している。
5	学力に差があるが、オンデマンドの授業であれば自分のペースで受講できるため、対面授業よりも有効だと感じた。動画教材も簡単に導入できるため、理解度が向上すると期待できる。
6	学習意欲のある学生は思考を深めていた。この点で教育効果は十分にあると考えている。
7	わからない部分を繰り返し見て理解するという事ができる学生にとっては非常に有用な上に教育効果が高いと思いました。
8	自分のペースで授業が受けられる、何度も見返して復習できるなど、学習意欲の高い学生にはメリットが多いと思われます。
9	リアルタイム形式としたことで、質疑の時間が確保できたこと、タブレットを用いた板書形式が理解度をあげたことなど、総合的に見ると例年通りの理解度を確保できた。
10	録画が再視聴できるため、やる気のある学生或いは欠席した学生へのフォローが充実したと思われる。 （1割くらいの学生が再視聴した様子。）
11	黒板よりも画面が占有できて、ビジュアルには学習の利点もあるため、今後の対面授業でも、予習・復習教材はオンラインなど、併用で授業計画を立てたい。
12	基本的な計算の修得はむしろ対面授業より効果があったように感じるが、対面授業ではなかったため、学生の反応をその場で見ることができず、情報分野の面白さを伝える狙いがうまくいったかどうかは評価できなかった。
13	リアルタイムでもオンデマンドでも繰り返し視聴できることは、意欲的な学生にとって有益である。
14	体調不良などで正規授業を受講できなくても、あとから学習できる点が良い。また、課題を解くときにも振り返って学習できることも良い。
15	試験はオンラインで作成、自動採点方式だったので、採点は楽ではあった。
16	聞きこぼしを確認できる点は、学生の学習にプラスだと思う。（私自身も、研究発表などを聞く際に、一瞬意識が飛ぶことで全体の流れを見失うことは、今でもあるため）

（二極化の顕在化）

1	効果は学生の学習に対する姿勢に依存する点は、対面授業より大きいと思う。
2	学生の気質に強く依存すると感じた。
3	自己管理ができ意欲的な学生にとってはオンラインは便利な学習方法だと思うが、一般の学生にとっては対面授業の方が教育効果は高いのではないかと思います。
4	遠距離通学の学生には良かったと思いますが、一人暮らしの学生には酷だったかもしれません。

(対面授業の重要性)

1	オンデマンドは学生にとって時間的制約も少なく効率的な学習を可能にする側面は確かにあると思う。一方で、対面授業における場の緊張感や学生の反応を見ながらの余談等がもたらす教育効果もあると思われる。オンライン（オンデマンド）授業と対面授業、各々の特性に応じた講義方法・教育効果について情報提供を期待したい。
2	教育は教員が教えるというのは一部に過ぎず、学友の姿から学ぶことが重要であると思い知ると同時に、現在の「教員一人当たりの学生数」を続けるのであれば、旧態依然と言われようと、従来やってきたような教室で黒板を使う巢ライルが最も効率が良いと再認識した。
3	外部講師、実務家など、専門的な知識だけでなく、働く姿勢や人柄なども伝える授業では、やはりオンラインより対面の方が効果的と感じた。
4	当然ながら、オンラインが適したものと、適さないものがある。適したものは、そのメリットを活かして、オンラインをメインにし、対面をうまく組み合わせた授業方法を検討すべき。
5	1年生は対面講義を渴望していたことを感想文などから強く感じた。
6	対面授業を超える効果は上がっていないと考える
7	一長一短である。しかし時代の流れである
8	期末試験の結果を見ると、リモートでの授業は一旦はわかった気になるのだが、理解は薄いと感じました。対面だと学生の様子を見て、力点を置いて説明できるのでその点が残念でした。
9	授業だけを取れば、オンラインで対処することも可能である。しかし、大学教育は、授業だけに依らないところがある。
10	教室での友人との情報交換、地域・現地で感じる空気、教員との綿密なコミュニケーションなど、これらすべてが整ってこそその大学教育であるので、オンラインだけではその本質にたどり着けないと考える。
11	学生にとっては、何度も授業を繰り返し受講できる点は良いが、やはり、わからないところを学生同士で共有しあったり、教えあったりというのができないので、教育効果としてのメリットは限定的である。
12	一部の科目は見返すことができ、例年より成績が上がったということを知りました、その逆もあり得ると思います。また、今後、COVID-19の状況が終息しても、オンライン授業を取り入れることは、可能性として高いと思いますので、オンライン授業に向いている科目とそうでない科目を見極めていく必要があると考えます。

(その他)

1	大学院の授業はオンラインでよいように思います。
---	-------------------------

オンライン授業をどのように活用しますか（講義系：工学・建築）
（積極的利用）

1	前年度の動画記録を翌年度の予習に利用し、反転授業（対面授業）の内容を充実させる。
2	オンデマンドコンテンツを事前学習及び対面授業の前半で使い、対面授業後半はその内容にかかわる専門基礎の復習や発展的内容についての双方向授業とするハイブリッド型とすることで活用したい。
3	通常の授業のとして利用できれば良いと感じています（ただし、当然、逐次内容は修正する予定）。そのうえで、希望する学生には、別の時間に対面で指導。
4	今年度と同様の方法で行うけれど、今年度の反省点を活かして継続して見たいと思います。何事も継続してみないと結果はわかりませんので。
5	前期のように講義は完全にオンライン・オンデマンドで実施したい。ただし、試験だけは対面の方が問題が少なくてよい。
6	遠方の方を呼んでの特別講義などには活用したい。
7	遠方の他大学などとの共同講座（合同ゼミ）などは積極的に活用していく予定。

（アーカイブ化・補完的利用）

1	学生への復習機会の提供（動画、資料、例題など）
2	就活で参加できない学生や、授業の復習用にオンライン授業を使えると思います。
3	再来年度には時間割からなくなる科目のため、できればその後の再履修用に使いたい
4	退職教員の授業コンテンツの活用
5	授業欠席者への対応
6	教員の状況や働き方に応じてオンライン授業を一部導入できる制度があると、働き手のワークライフバランスにプラスだと思う。
7	出張時の補講や、再履修クラスで活用できると考えています。
8	学外（市民）講義

（負担軽減とその他）

1	社会の状況など、必要があれば、対処する。
---	----------------------

今後の授業に向けての要望や意見（講義系：工学・建築）
（オンラインの積極利用・制度化）

1	今年度の教材を活用した反転授業に挑戦してみたい
2	対面の代替としてのオンラインではなく、オンラインを積極的に位置づけ、対面とのミックス（ブレンド）を検討していくべきか。
3	科目を選ぶとは思いますが、時間割にしばられず、期間内であればいつ受講してもよいオンデマンドの授業群を設けてはどうでしょうか。再履修科目や集中講義に利用すれば受講の負担軽減にもなるかと思っています。
4	引き続き、授業資料のPPTでの作りこみや、説明事項の入念な準備は継続したい
5	オンライン授業は今後の社会に必要なものだと思いますので、（全部をオンラインにするのはどうかと思いますが）継続して取り組みノウハウを蓄積し良いものにしていくことが大学の発展につながると思います。
6	オンライン化が可能な科目はできる限りオンライン化する方がとよいと思います。

（対面授業・対面試験の拡大）

1	授業だけを取れば、オンラインで対処することも可能である。しかし、大学教育は、授業だけに依らないところがある。教室での友人との情報交換、地域・現地で感じる空気、教員との綿密なコミュニケーションなど、これらすべてが整ってこそその大学教育であるので、オンラインだけではその本質にたどり着けないと考える。
2	オンラインだけでは、サイバー大学と同じ。学生は対面による講義を強く望んでいることを汲み取ることが肝要と思う。
3	試験は対面で実施することが望ましい。
4	コロナ感染防止を最優先させながら、できるだけ対面授業を増やしてほしい。
5	教育効果の面では次年度もオンライン授業としても問題は無いが、1年生前期科目ということから対面で実施するのが望ましいと思います

（教員負担の軽減）

1	オンライン対応で、教員間の仕事量に差があるように思う。
2	リアルタイム講義は自身の経験上、学生にとって有意義であると思うが、その分、教員にかかる負担は普通の講義よりも格段に増大している。
3	すべてオンデマンドにすれば良いではないか、そうすればみな負担が同じ、といえるが・・・それは、大学教育の質の低下を招くと思う。
4	良い教材を作成したいと思うが、時間が取れない。

（情報共有・サポート体制）

1	オンライン授業等についてなんでも相談的なサポート体制が確立されて(確立されている?)、周知されておりますと相談しやすいと感じました。
---	--

(施設設備の充実・LMSの改善)

1	WebClass, Teams, ポータル配信などから発信される連絡、課題に対応仕切れない学生がいる。そのフォローは相当大変。「学生が不利にならないように」という配慮をギリギリまでしていったが、「締切」の概念が緩んでしまっていることが、今後の懸念でもある。特に、1年生は対面メインで実施できることが望ましい。
2	オンライン授業の動画の撮影、編集を行うことができるようなスタジオがあると便利かなと思いました。
3	大学のシステムがオンライン授業をバックアップできるように変わらなければならないと思います。今期のオンライン授業はテンポラリーな対応でしたので、本格的にオンライン授業を実施するのであれば、投資が必要です。
4	オンライン授業の教材を作成する上での技術的なアドバイスや支援がいただけるとありがたいです。(既にご検討とのことですが) Illustrator のような有償で学内でしか使えないソフトを、自宅でも使えるようにして頂きたい。

(著作権問題その他)

1	著作権の取り扱いが今後どうなるのか知りたい。
2	対面授業での感染対策の指導徹底とルールの策定 (例えば、対面授業・試験で回収した提出物の除菌対策等)

前期授業全体を終えての感想（講義系：工学部）

1	思ったよりも悪くありませんでした。
2	今年度は授業の準備で精一杯だったため必要最小限の対応しか取れなかった点に反省点が残るが、オンライン（オンデマンド）授業は学生の復習機会の確保や理解度の向上にメリットもあり、今後は対面授業とオンデマンドを組み合わせる授業を組み立ててみたいと思っている。
3	メリットに比べてデメリットが小さいと感じた。対面授業が可能になってもオンデマンド方式の授業を継続したい。
4	教材、システムそのものに不慣れであったことが大きな問題点であり、反省点でもあった。
5	オンライン授業は負担がかなり大きかったです。
6	作成したコンテンツを他に使用する場面があれば、これまでの労力が報われると考えています。
7	通常対面だと学生の反応を見て、繰り返し説明することがあるが、オンデマンドだと進行が速くなり
8	自分の授業を顧みることができた（資料や音声）
9	テスト以外は、いつもと同じ内容を実施できたと思います。
10	遠隔授業で何ができて何ができないか体験できたことは収穫だった
11	試験以外は、概ね問題はなかったと思う。
12	オンライン授業の操作や方法に慣れるまで大変だった。
13	オンデマンドの授業では、どの程度理解しているのかわからないのが心配であった。
14	初めてのことなのに学生はよく対応してくれたと思います。学生に感謝します。ただ対面授業でなければ教えることができない部分もあり、そこを学ぶことができなかった学生に「すまないなあ」と思います。
15	通常はライブ形式で行われ、実施後に残らない授業コンテンツが、今年度前期はオンライン授業となったため、内容を振り返り改善につなげていくFD活動との相性がよいと感じた。オンライン授業を継続していけば、より良い授業コンテンツを学生に提供できるように思う。

前期授業全体を終えての感想（講義系：建築学部）

1	授業準備にも時間がかかるが、その後の質疑応答の時間や学生フォローに相当の時間を割いた。大学教育の質を落とすことはなかったと自負しているが、それ以外の時間は取れなかった。
2	授業動画作成に例年より、きわめて多くの作業時間を費やしてしまい、後期はより効果的な制作を工夫
3	外部の実務家講師の人柄や働く姿勢など、対面講義でないと伝わらないことが多いとあらためて感じた。
4	資料の作成、試験の作成など非常に負担が重かった。
5	試験を終えて、結果的には各回授業の取り組みと試験で、例年と変わらない評価ができたと考えている。ただし、実際の学生の理解度、その定着度の測定（過去との比較）はできていないので、何とも言
6	特に1年生の科目なので、学ぶこと以上に、他の学生の存在を感じ、つながることが重要なので、その目的は達成できなかった。ただし、建築専門の内容については大いに興味を深めたようである。
7	情報サービスセンターのサポートがありがたかった。質問に丁寧に応じて下さって、感謝。
8	準備が非常に時間がかかったが、次年度以降に向けた講義の質の向上に貢献できたと思う